

本図幅地域は 名古屋市南西約40kmにあり図幅東半部は伊勢湾で占められている。陸域は 地形的に丘陵・台地・平野に分けられる。丘陵は 鮮新一下部更新統の奄芸層群から 台地は 中部更新統の見当山累層相当層及び中部—上部更新統の水沢扇状地堆積物・段丘層から それぞれ構成され 更に平野地下には上部更新統—完新統が累重する。これらはいずれも半固結—未固結の粘土・シルト・砂・礫からなる地層である。

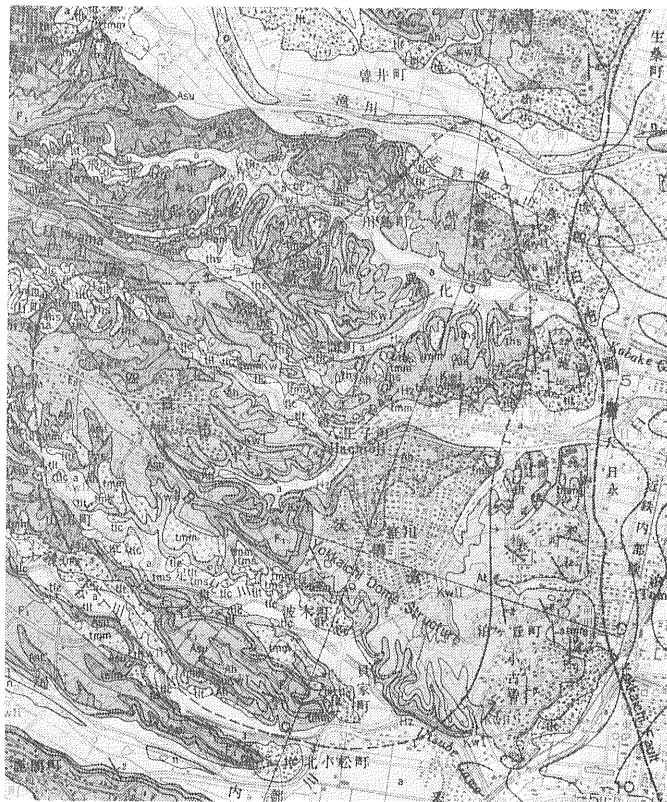
本図幅地域の奄芸層群は 大阪層群下部(?) 一最下部に対比されている。厚さ約700mに達する河成～湖成堆積物であり 薄い火山灰層を何層か挟むことから 詳しい火山灰層序学的研究が行われている。地層の傾斜は緩く 四日市断層により変形を受ける箇所を除くと 大きな露頭でようやく傾斜する方向が判別できる程度の傾きである。層序区分は 亀山・八王寺・桜村・泊・大泉累層に分けられている。このうち 桜村累層(砂質相)と泊累層(礫質相)は同時異相の関係にあり 八王寺累層(粘土質相)に漸移整合に載る。これらの関係は波木町北の採土場において明瞭に観察できる。なお桜村累層は 層相に基づき5部層に細分されている。

本図幅地域の特徴は 著しい台地地形の発達である。これらの台地は 丘陵を含め 中期更新世以降の断層地塊運動(六甲変動)と氷河性海水準変動とによって形成された地形である。台地を形造る見当山累層相当層・水沢扇状地堆積物・段丘層は いずれも厚さ数m～10mの礫層であり 合計7段の扇状地・段丘面を発達させている。なお 見当山累層相当層は 大阪層群最上部に対比されている中部更新統である。

平野地下に累重する上部更新統—完新統は 下位より古伊勢湾層・伊勢神戸層・四日市港層・富田浜層に区分されている。それらの全層厚は 海岸線沿いで約20～40mに達している。このうち 古伊勢湾層・四日市港層は海進期の伊勢神戸層 富田浜層は海退期の堆積物である。

以上の地層を変位変形させる活構造が多数発達する。そのうち特に 桑名—四日市断層系が詳しく記載され その変位量・変位速度が記述されている。

なお 広域的な視野で本図幅地域の地質系統の位置づけを知るためには 最近印刷出版された50万分の1地質図幅「京都」(第4版 1982)と20万分の1地質図幅「名古屋」(第2版 1981)が手頃である。更に本図幅西隣の5万分の1「亀山」図幅が1981年度に印刷公表されている。併せて読まれることをお薦めする。



5 万分の1 地質図幅の新刊

四 日 市  
YOKKAICHI

5 万分の1 地質図幅地域地質研究報告



著 者 吉田史郎  
 発 行 工業技術院 地質調査所  
 取 扱 先 東京地学協会 (03) 261-0809 262-1401  
 そのほか全国主要書店  
 販売価格 2,680円

地質ニュース	第357号	5 月 号
	昭和59年5月1日	定 価 ￥ 600
編 集	発行 工業技術院 地質調査所	干 実 費
発 行人	林 久 雄	発 行
発 行 所	株式会社 実業公報社	
印 刷	〒102	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03) 265-0951 (代表)	
	振替口座 1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	
	出版事業部	